

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：海老名市障害者支援センター あきば	種別：障害者多機能型事業所 (生活介護、就労継続支援B型)
代表者氏名：白石 雄希	定員(利用人数)：80名(60名、20名)
所在地：〒243-0431 海老名市上今泉6-11-20	
TEL：046-240-0775	ホームページ：http://hoshiyakai.com/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：1993年10月1日	
経営法人・設置主体(法人名等)：社会福祉法人星谷会	
職員数	常勤職員：14名 非常勤職員 20名
専門職員	サービス管理責任者 2名 介護福祉士 3名
	社会福祉士 2名 強度行動障害研修修了者 9名
	精神保健福祉士 1名
施設・設備 の概要	作業室6、多目的室、陶芸室 食堂、浴室、厨房、会議室
	カフェ「はみんぐ」

③理念・基本方針

<p><法人の理念></p> <p>一人一人の個性を輝かせるために</p> <p>☆ノーマライゼーションの理念の実現</p> <p>☆地域福祉の充実</p> <p>☆人権尊重と利用者主体の支援</p> <p>☆質の高いサービスの提供</p> <p><職員行動指針 支援の実践にあたって></p> <ul style="list-style-type: none">・利用者主体の支援「本人の力、ストレングスを信じて、一人の人として」・自己決定・意思決定支援「職員の価値観、一方的な見方ではなく」・コミュニケーション「情報交換、話しあい、一緒に考えたい」・プロフェッショナル「利用者はサービスのユーザー、心地よいサービスをめざして」・自己研鑽「振り返り、向き合う、予測と意識」・ゆとりを持つ「冷静に、丁寧に」
--

④施設・事業所の特徴的な取組

<p>○利用者の障害は幅広く、個性豊かな方たちが活動している。そのため同じ活動室で個々の活動ができる班や、他の人がいると落ち着かない方は一人ひとり構造化(生活場面において環境設定やスケジュールの提示などで何をすべきかをわかりやすく提示する方法)された中の作業班、常に医療的配慮が必要な班など、利用者の特性に応じた5つの班に分かれて活動を行っている。段ボールの仕切り作りやタオルたたみ、キャップの色分け、CDの種分け、陶芸、絵画、手芸、農作業など、多くの活動を準備して、利用者自身に選んでもらっている。</p> <p>○利用者は市内の企業からの受注作業や創作活動に取り組んでいる。最近では、利用者の描いた絵をTシャツにプリントして、販売を始めている。また、セルフプロダ</p>

クトチームを中心に、カフェ「はみんぐ」でマルシェ（自主製品販売会）を行っている。陶芸や子どもたちに向けたお菓子、ヨーヨー釣り、野菜の販売などを行い、地域の人たちと交流している。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月1日（契約日） ～ 2023年2月16日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○海老名市障害者支援センターあきばは、市の指定管理を受け、知的障害や身体障害、精神障害、重度心身障害、重度自閉症など、障害のある利用者を幅広く受け入れ、生活介護事業と就労継続支援B型事業を提供している。

○事業所内に機械浴槽を備えて、自宅での入浴が困難な利用者に入浴サービスを提供する他、単独型短期入所事業として4名の受け入れ体制を整え、日中一時支援事業にも対応している。1階にはカフェ「はみんぐ」、2階には相談支援事業所「結夢+」がある。

○利用者は出勤後、自分の荷物をロッカーに片付け、班の仲間が揃うと朝礼を行っている。朝礼では午前の活動を自分で選び、ホワイトボードの活動の場所に自分の名前の札を貼って、その日の活動を行っている。昼食後のミーティングでも、午後の活動を自分で選んでいる。重度自閉症の方たちは、構造化された環境の中で、今日一日の活動を、流れに沿って確認しながら行っている。

○年1回、どのような生活を送りたいか、口頭による満足度調査を行い、利用者の望む生活を確認している。また、個別支援計画作成時には、本人の思いを面接で確認し、毎日の活動に反映している。法人の理念でもある、利用者が主体となった活動を支援している。

○利用者自治会を定期的開催して、利用者の意見を聴く機会を設けている。昼食に何が食べたいか、どこに行きたいかなどの希望が出ている。以前、自治会の中で「活動中ラジカセで音楽を聴きたい」という希望が出たことがある。事業所でラジカセを購入し、現在は音楽を聴きながら作業をしているグループがある。

○会話が可能な利用者が約半数おり、言葉でのコミュニケーションが可能な方は多い。「行く」など単語だけの言葉を表出する方には、職員は前後の状況を見て、トイレに行くのか、食堂に行くのか、どこに行きたいか判断して支援するようにしている。また、ジェスチャーや写真、イラストを提示して会話を行う方や、トーキングエイド（携帯用会話補助装置）を使用して職員と会話をしている方もいる。

○朝、昼、終礼の時のミーティングは、利用者が司会をして進行している。会話の苦手な方は挨拶だけをしてもらうなど、その方に合わせた対応をしているが、できるだけ皆の前で話す機会を作るようにしている。

○食事は外部業者に委託し、事業所内の厨房で調理している。栄養士が献立を作成し、食事担当の職員が利用者や家族の希望を聴き、給食会議で栄養士に伝えて献立に反映している。常食や1口刻み、刻み、ペースト、ソフト食の食形態を用意し、利用者個々に合った食事を提供している。特に食事にこだわりがある方には、本人のこだわりに配慮して提供している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

前回の受審から5年が過ぎての受審となりました。
今まで積み重ねてまいりました利用者さんへの支援や施設・法人運営に関する取り組みについて評価いただきありがとうございました。

受審していく中でいろいろな気づきをいただきました。法人、事業所の課題や「強み」についても気づきを得ることが出来ました。
今後は法人組織、事業所の評価を上げる具体的な取り組みや方策を検討して実施していきます。又アンケートにご協力いただいた利用者さんの声を日々の支援に活かしていきたいと思います。

コロナ禍で日程等を変更頂くなど色々とお手数おかけしまして申し訳ございませんでした。
今後も継続して受審させて頂く予定ですのでどうぞ宜しくお願い致します。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり